

●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラト

公民館報 まつもと

発行
2022
7/30

松本市立博物館分館
松本市 四賀化石館
MATSUMOTO CITY SHIGA FOSSIL MUSEUM



関連記事6面

シリーズ デジタル化 (第3回)

豊かで快適な未来へ

「デジタルシティ・松本」に向かって進んでいる松本市のデジタル化。そこにどんな便利な社会が待っているのでしょうか。

デジタル化の定着は慎重に

これからは市役所窓口での諸手続きも、あえて出向くことなく、混雑を避けて自宅での簡単な操作でできるようになりそうです。しかし、現時点では誰もがスマホやパソコンを持ち、活用ができるというわけではありません。

松本市では「誰一人取り残さない」ように、インターネットなどの情報技術を利用できない方への対応を考え、公民館での講習会なども実施しています。しかし、習得の機会を設けるだけでは根本的な解決にはつながりません。また、十分にICT(情報通信技術)を活用している世代であっても、顔が見えないやり取りに不安を感じている方もいるようです。人との温かみある関わりを残す工夫と、孤立化しない配慮が望まれます。



スマホ体験講習会 (7月8日白坂地区公民館にて) 講習会は毎月2回、各地区公民館で開催されます。

適応性が高い子どもたち

松本市では市立小中学校に1人1台の学習用端末を整備し、令和3年度からは、鉛筆やノートなどと並ぶ「新しい文房具」として端末を活用しています。子どもたちは大人以上にデジタル技術を使いこなす、将来的に情報社会に対応できる力を備えた人材になることが期待されます。

まだ課題もあるかと思われ、今後「教育のデジタル化」が進めば、一人ひとり

の個性を尊重する学びの実現も可能と言われています。それは「デジタル化」のメリットであり「豊かな生活」にもつながることでしょう。

人にやさしいデジタル化

百回のメールのやり取りよりも、わずかな時間でも顔を合わせた会話に大きな意味があります。「デジタル化」の推進によってもたらされる快適な未来はもうすぐそこにあり、社会課題の克服に向けて必要なことであることも確かです。その中で、一人ひとりが豊かさや幸せを感じられるまちを目指し、人と人とのつながりを大切にした「デジタルシティ・松本」でありたいものです。



少し先のデジタルの担い手 (旭町小学校)

わがまち自慢 (四賀地区)

バラ公園

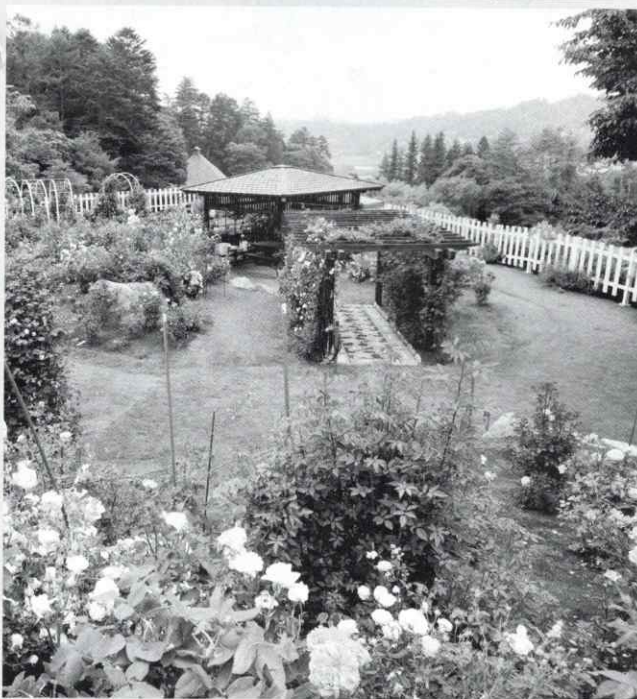
新設の公園では、広い緑の空間のなかでたくさんのバラに囲まれて

市営四賀球場の西駐車場下側、四賀支所の北東の高台にバラ公園があります。約千㎡の庭園に300本あまりの色とりどりのバラが咲き誇り、アーチや西洋風あずまやにベンチなどが配置された、自然を大切にしたいイギリス式庭園風です。バラの苗は四賀市営球場の緑化管理をしていた会社で管理を任せました。庭園整備・植え込み作業などたくさんの方の協力を得て、今年の開花を迎えました。

四賀地区には、国内最大級の福寿草の群生地があります。プロジェクトメンバーや住民はバラ公園とともに『花の里』として四賀が知られ発展してゆくことを期待しています。

バラ園の誕生は、2020年地元有志の『四賀元氣プロジェクト』が計画しました。植えられたバラは、寿豊丘の百瀬茂さんが育てた多くの

種類のバラを手放すことを知り、譲り受けたものです。



来年はもっとあでやかに皆さんをお迎えます



安原地区福祉を語る集い

安原のいま
 総人口 4,580人 (前年比-22人) 【男 2,243人 女 2,337人】
 安原地区公民館 〒390-0802 松本市旭2-11-13 TEL 0263-39-0701

音楽聴いて免疫力を高める 安原地区福祉を語る集い

7月2日土曜日の午後、松本出身の理学博士和合治久さんを講師に招き、和合さんが30年以上研究をされた「音楽療法」についての講演会を安原地区社会福祉協議会主催で開催しました。

40歳の頃、「音楽が病気の予防・未病の治癒力を増す効果がある」ことが書かれたレポートを読み、非常に興味を引かれました。音楽好きでモーツァルトが好きで和合さんは、音楽が持つ不思議な力の科学的な裏付けを取り、効果を証明する研究を始めました。



和合さんの演奏を聴き、一緒に信濃の国を歌いました。

未病とウエルネス

和合さんのお話の中には聞いたことのあるが、意味を理解していない言葉がいくつもありました。東洋医学の中の「未病」というからだの不調を表す言葉や、また西洋医学で使われる健康な状態を表す「ウエルネス」という言葉の意味を知りました。

例えばモーツァルト作

曲のある曲を聴くことや、大きな声で歌を歌うことが、自分の体を感じから守ってくれるかもしれない、と説明しました。これが、免疫力を高める音楽療法、今回のテーマです。

和合さん72歳、定年退職されましたが、精力的に全国で講演をされ、音楽演奏会「音楽セラピーコンサート」を監修してこちらも全国で行っています。和合さんの素敵なハーモニカを伴奏に、参加者全員で歌をうたい、免疫力が高まった気がしました。

「ロツピキ」

活動再開!

信大生が萩町を拠点に活動しているシェアコミュニティスペース「ロツピキ」が、新型コロナウイルス感染症の落ち着いたに伴い、4月から本格的に活動を再開しています。

「学生×政治 対話会」として、5回にわたって勉強会を開きました。日本の将来を担う若い世代に、政治への関心を高め、より身近に感じてもらうことが目的です。ロツピキ代表の鈴木七海さんが、2月の公民館研究集会「まちづくりの集い」で、安曇野市と松本市を拠点に活動している学生団体と知り合ったことで開催に至りました。

6月中には、政治における有識者を招き、学生たちの質



落ち着いた雰囲気の中で読書を楽しむ参加者

問に答える形で安全保障や次世代教育改革などについて語り合いました。

鈴木さんは、「実際に話し合ってみると政治に対するイメージが変わりました。自分ももっと勉強しないと」と感想を述べていました。

2年間活動を制限されてきたロツピキですが、今年度は定期的にオープンさせて、映画上映会やご飯会なども開催していく予定です。

6月24日には、一期生が開いた古書店と、仲間のカフェとのコラボで夜の読書会が企画されました。おいしいドリンクを飲みながら、めいめいゆったりとした時間を過ごしていました。

「人とのつながりが生まれる場にしていきたい。気軽に立ち寄りください」と、鈴木さんは抱負を語りました。



カリカリブックス (古書店) とモノノメ (カフェ) コラボの読書会

奥が深い蕎麦打ち



見事な手つきで粉をこねる山川さん

5月24日、安原地区公民館で蕎麦打ち体験会を6人の参加者で開きました。信州蕎麦の会の山川さん、斉藤さん、小原さんが講師を務め、道具や材料を準備していただき行われました。

粉に水を徐々に入れながら、小さな玉にして、胡麻大豆くらいの大きさと塊に大きくし最後に大きな塊にします。

「手の甲をこういう形で指を立てて・・・。右手は時

計回り、左手は反対にして回すと水と粉が混ざります」と先生。同じようにやっているつもりですが全くできません。

「切ってから包丁を斜めにして切る幅を決めます。この繰り返しです」と指導を受けました。続きを切ったのですが、太さがバラバラ、うどんの太さになった蕎麦もありました。

蕎麦打ちは奥が深い。家に帰って、出来た1kgの蕎麦を茹で、家族と食べると美味しい！自分で打った蕎麦は、手前味噌ですが美味しかったです。



そば粉と奮闘する参加者



サークル紹介③

安原地区スポーツ協会卓球部

早くも梅雨の明けた6月27日、コロナ禍の影響で5か月振りに活動を再開した安原地区スポーツ協会卓球部を訪ねました。

地区公民館大会議室に3面の台が並び、それぞれ中学生、中級者、上級者がダブルスを組みながら台ギリギリに打ち込まれるボールを、軽快なフットワークで壁際まで追いかけます。ピンポンというイメージを

微塵も感じさせない機敏な動きと、テレビでしか見たことのないサーブの構えや、台の陰で交わされるサイン、回転のかかったボールへのスマッシュが決まって仲間同士が讚え合う姿に、皆さんが仲間との卓球を心から楽しんでいるのが分かります。

結成したのは公民館設立と同時に、20年活動を続けています。コロナ禍以前は中国、韓国からの信大留学生も参加して賑やかだったそうです。今は40代から80代、そこに中学生も加わり経験者や初心者含



ラリーの応酬が続きます

め15人の老若男女が健康維持を一番の目的に、7月の地区球技大会、10月9日の市民体

育祭に向けて練習に熱が入ります。

卓球に興味のある方はぜひ一度覗いてみませんか。毎週月曜日の夜7時頃から集まっています。

いちよう並木

華麗に変身

ジャーマンアイリス

花菖蒲は花菖蒲間の交配のみで、日本的な紫の濃い淡いを基調に作られてきました。ジャーマンアイリスは交配



乾燥に強いジャーマンアイリス

可能なアイリス属の混血交配を重ね華麗で豪華な花を生み出した点に特徴があります。緋赤を除いたあらゆる色の花が誕生しています。アヤメ科アイリス属別名ドイツアヤメと呼ばれています。

紀元前1500年の昔から天国と地上を結ぶ虹の架け橋、善人の魂を天国に運ぶ女性役の使者として、神話の世界でも語られています。地中海沿岸の原種から交配され、寒さに強く乾燥状態を大変好む植物です。多湿は禁物。半日以上陽が当たり、通風と水はけの良い土地に植え込み、弱アルカリ性が最適。株を大きく育てるため、石灰を地表に施し、遅効性の化成肥料を少し施す程度で充分育ちます。

視点

⑦ 学生と住民のたまり場
信州大学
ロప్పキ

たまり場ロప్పキ

信州大学の学生グループ「ロప్పキ」は、大学近くにある空き家を学生が中心になってリノベーションし、学生や住民、誰もが集える、シェア・コミュニケーションスペースづくりに取り組んでいます。活動は2016年から始まり、今年6周年を迎えました。現在は、月曜日と金曜日を中心に、誰でも気軽に使える「OPEN DAY」や映画鑑賞会などを企画しています。

また、ロప్పキは場所の活用を目的に、貸しスペースとしても利用が出来ます。ミーティングや作品の制作、フリーマーケットなど、さまざまな学生グループがロప్పキを活用しており、学生グループの活動拠点になっています。

「ロボ」つながる

他団体とのコラボにも積極



訪れた人の足跡「ロప్ప木」

的です。代表の鈴木七海さんは「面白いことをやっている団体、面白い人をロప్పキに呼んで、一緒に学びたい」と話し、コラボがきっかけでそれぞれの活動の輪が広がることを大切にしています。

先月には、「ゆうぐれの箱」と題し、古本屋、珈琲屋とコラボして誰でも気軽に参加できる読書会を行いました。コラボ企画を通して、ロప్పキが他の団体の活動を紹介する場になり、学生同士の新たな交流の機会を作り出します。

地域に灯る明かり

暗くなるにつれ、ロప్పキからの漏れ光が通りを照らします。鈴木さんは「通りに電気が点いている家があると地



読書会の様子、使い方は人それぞれ

域に活気が生まれる」と述べ、ロప్పキが地域に活気を取り戻す明かりになることを目指します。

ロప్పキは、学生、住民関係なく誰もが利用できる場であり、過ごし方も人それぞれです。何気なく集まった人たちが交流しつながら、ロప్పキがその人の居場所になり、多様な灯りを発します。

令和4年度 新任公民館職員

● 公民館長

中央	石川 善啓
第三	武井 保典
城北	小岩井 成人
大手	遠藤 彰
和田	萩原 良治
安曇	大野 修

令和4年度 館報全市版編集委員

第二	栗田 幸信
東部	古謝 彰貞
城東	三澤 孝吉
白板	片桐 史門
庄内	小林 大
中山	宇治 樹
神林	丸山 貴大
笹賀	矢口 竜也
竹村	夕馬 美鈴
奥原	美鈴

第一	山内 敦子
第三	上條 恒嗣
東部	小澤 智浩
城北	吉見 隆男
中央	澤柳 秀子
安原	大和 靖
浅田	達夫
高山	剛正
大野	彰孝
南雲	多榮子
藤森	俊男

島内	川上 弘
中山	真次 敬子
島立	上條 貴志子
新村	山口 茂
和村	塩原 真由美
神林	藤澤 良彦
笹賀	窪田 守
上平	貴明
江藤	弘子
曾根	原 豊
増沢	忠芳

おこひる

通勤途中に見る北アルプスで好きな景色は雪の北アルプス。降り始めの頃の姿から、だんだんと雪が増え姿を変えていく北アルプスの変化を見るのが日課のようになり、毎年この雪はいつまであるのか?と思いつつ職場へと向かう▼冬の晴れた日に雪の北アルプスを見ると元気をもらい「今日も1日頑張ろう!」そんな思いになる。時にはこのまま白馬まで行きたい思いになることも。そんな北アルプスの雪も少なくなってきた▼初冠雪から変わり行く北アルプスを見るのが楽しみとなり、同じようだが毎日違うように見える北アルプスを写真に収めることも。春になりひと雨ごと雪がなくなっていくのを見ると寂しくなるが、里では雨でも山は雪ということもあり雪が増えることも▼そんな北アルプスも冬の山から夏の山へと変わりつつある。まだ山には雪はあるが梅雨が終わる頃にはなくなってしまうだろう。寂しいものがあるが夏の北アルプスは冬の北アルプスと違った姿を見せてくれるので飽きることはない。



歴史探訪

探る松本29

いつの時代も重要な拠点

四賀地区

交通の要衝

四方を山に囲まれ、会田川・保福寺川が流れる四賀地区は、古くから嶺間と呼ばれ、縄文時代中期からの遺跡が発見されています。朝廷により東山道・錦服駅が置かれたと言われており、交通の要衝として栄えました。

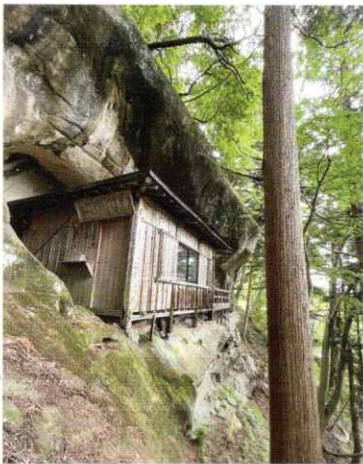
昭和30(1955)年、町村合併促進法により合併し、4カ村の合併を賀すという意味を込め「四賀村」と名付けました。

文化財の宝庫

鎌倉時代には伊勢神宮御料地である会田御厨が置かれ、小県地方から進出した会田氏が地頭となりました。虚空蔵山を中心に山城を造り、長きにわたりこの地を治めました。

昭和11年に発見されたクジラの化石が穴沢に現地保存され、化石館には1300万年前のマッコウクジラの完全化石が展示されています。幕領であったため、廃仏毀釈の影響を受けず、寺院や仏像が数多く現存します。鎮守神28社、寺院10、小祠・社殿約500、堂7などがあり、石造文化財においては2900基にもおよびます。

江戸時代には善光寺道(北国西脇往還)や江戸道(保福寺道)が通り、刈谷原宿・会田宿・保福寺宿が置かれ、江戸中期以降は幕領に編入され、明治を迎えました。明治初期、27カ村からなっていました。1889(明治22)年の町村制施行により、錦部・会田・中川・五常の4カ村



虚空蔵山の斜面に建てられた岩屋社



大規模な「大結ぶ市」は年4回開催

松本平の野鳥たち

ガビチョウ (2021.10 松本市・里山辺 写真提供:信州野鳥の会)

近年各地で分布拡大しており、松本市内でも高密度で観察されている鳥類の「特定外来生物」です(2005年に指定)。大きさはスズメの倍くらい。藪を好み、姿を見る機会は少ない。留鳥化し1年を通じてかなりやかましく囀り、何の鳥の声?との問い合わせが多い。

表紙について

絶景の峠道や練習コースなど、松本市はオートバイを楽しむ環境に恵まれています。無理せず急がず、風を切って走った後は、お気に入りの場所でコーヒブレークです。

(撮影 2022.6.19 松本市四賀地区)